

2009年度

日本魚類学会年会

プログラム

The 42nd Annual Meeting, 2009

期 日：2009年10月9日（金）～10月12日（月・祝）
場 所：東京海洋大学品川キャンパス

日本魚類学会

The Ichthyological Society of Japan

2009 年度日本魚類学会年会タイムスケジュール

- 口頭発表第1会場：大講義室
- 口頭発表第2会場：32番講義室
- ポスター発表会場：31, 33, 35, 41, 43番講義室
- 総会：大講義室
- 奨励賞受賞講演：大講義室
- オークション：21番講義室
- 休憩室：22, 45番講義室
- 懇親会：体育館
- シンポジウム会場：大講義室, 32, 34番講義室

10月9日（金）

12:00～14:30 編集委員会：楽水会館

15:00～17:00 評議員会：楽水会館

10月10日（土）

口頭発表 第1会場 (大講堂)	08:00-	09:00-10:15		10:30-11:45	11:45-13:30	13:30-15:00		15:15-16:45
	受付	生態・卵稚仔 1-5	休憩	生態・発生 6-10	昼休み	生態・保全 11-16	休憩	生態・生理 17-22
		魚類相・分子遺伝 48-52		体系・分布 53-57		体系・分子遺伝 58-63		形態・分子系統 64-69
口頭発表 第2会場 (32番講義室)	09:00-11:45			12:30-13:30	13:30-15:00			
ポスター発表 第1-5会場	ポスター発表 (奇数番号自由発表)			昼休み (奇数)	ポスター発表 (奇数番号自由発表)			

10月11日（日）

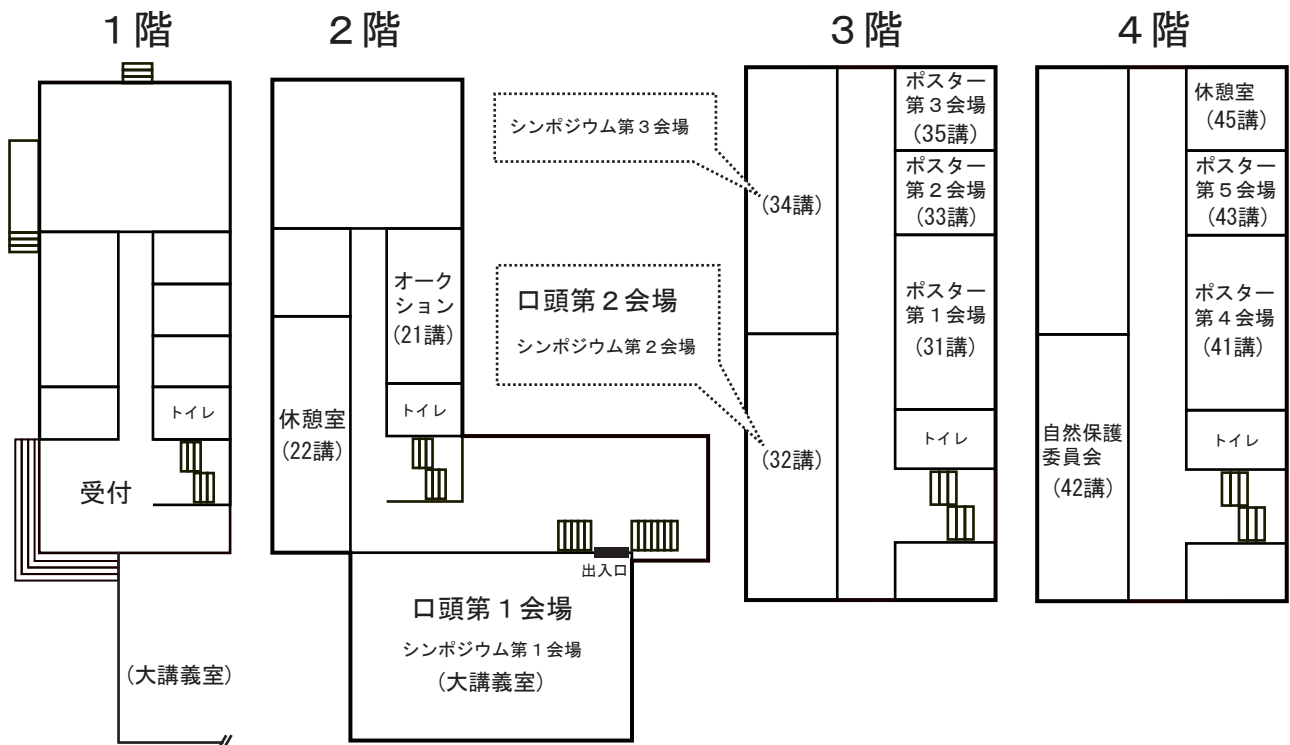
口頭発表 第1会場 (大講堂)	08:00-	09:00-10:15		10:30-11:45	13:30-14:45	15:00-16:00	16:00-17:00	17:00-17:30	18:00-20:00	
	受付	生態・行動 23-27	休憩	生態・保全 28-32	昼休み	生態・体系 33-37	休憩	生理・卵稚仔 38-41	総会	受賞講演
		分子遺伝・分類 70-74		形態・体系 75-79		分布・体系 80-84		分類・形態 85-88		
口頭発表 第2会場 (32番講義室)	09:00-11:45			12:30-13:30	13:30-15:00					
ポスター発表 第1-5会場	ポスター発表 (偶数番号自由発表)			昼休み (偶数)	ポスター発表 (偶数番号自由発表)					
懇親会 (体育館)										

11:45～13:30 自然保護委員会：42番講義室

10月12日（月・祝）

第1会場 (大講堂)	08:00-	09:00-10:30	10:30-	11:00-18:30 (休憩 12:00-13:00、14:40-15:00、16:40-17:00)	
	受付	生態・行動 42-47	受付	国内外来魚問題の現状と課題 (自然保護委員会市民公開シンポジウム)	
第2会場 (32番講義室)	09:00-10:30		12:10-	12:40-18:30 (休憩 15:00-15:10、17:40-17:50)	
	分類・分子遺伝 89-94	休憩	受付	日本在来魚における適応的分化：その実態とエコゲノミクスへの展望	
第3会場 (34番講義室)			10:30-	11:00-18:00 (休憩 12:40-13:30、16:10-16:20)	
			受付	迫り来る温暖化から魚類を救え！一魚類学者たちの挑戦ー	

会場配置図（東京海洋大学品川キャンパス）



研究発表プログラム

口頭発表

(1 演題の持ち時間は、発表 12 分と質疑 3 分の合計 15 分。共同発表者のうち○印は演者。)

口頭発表第一会場

10月10日(土)

午前の部 9:00~10:15 (生態・卵稚仔)

- 9:00~ 有明海におけるアカエイ属 3 種の繁殖生態
○古満啓介・山口敦子 (長大水)
- 9:15~ オニイトマキエイ *Manta birostris* の呼吸方法
○戸田 実・植田啓一 (海洋博研セ)・内田詮三 (美ら海水族館)・
相馬広明 (東京医科大)
- 9:30~ 岡山県沿岸域で採捕されたナルトビエイの消化管内容物
○亀井良則 (岡山水試)・浜口昌巳 (瀬戸内水研)・萱野泰久 (岡山水試)
- 9:45~ パラオでの集魚灯採集で得られた仔稚魚
○森 俊彰 (北里大海洋)・坂上治郎 (Southern Marine Laboratory, Palau)・
朝日田卓 (北里大海洋)
- 10:00~ トノサマダイにみられる着底場所の選択性
○小栗聡介 (高知大院農)・中村洋平 (高知大院黒潮圏)・平田智法・
平田しおり (宇和島市)・山岡耕作 (高知大院黒潮圏)

休憩 10:15~10:30

午前の部 10:30~11:45 (生態・発生)

- 10:30~ 食性からみた三重県加茂川における遊泳性魚類 4 種の競合関係
○石崎大介・淀 太我・吉岡 基 (三重大院生資)
- 10:45~ 愛媛県重信川周辺の湧水池における魚類群集の 10 年前との比較—改修および外来種の与える影響—
○川西亮太 (愛媛大院理工)・藤原結花 (愛媛大理)・内田有紀・角崎嘉史・
井上幹生 (愛媛大院理工)
- 11:00~ 安定同位体比によって明らかにされた琵琶湖水系産魚類の産卵回遊生態
○伊藤琢哉・由良洋介・川島宇二郎・丸山 敦・遊磨正秀 (龍谷大院理工)
- 11:15~ 托卵宿主種の稚魚による寄生種の卵の捕食
○山根英征・渡辺勝敏 (京大院理)・長田芳和 (大教大教育)
- 11:30~ タイリクバラタナゴ初期発生胚由来の長期間培養細胞
○上田高嘉 (宇都宮大教育)

日本魚類学会奨励賞 受賞講演

「分子系統解析による東アジア魚類相形成史への新たな問題提起：ササノハベラ属と在来コイの研究から」
馬淵浩司 (東大海洋研)

時間 17:00~17:30 (総会終了後) 場所 口頭第 1 会場 (大講義室)

日本魚類学会論文賞

「Revision of the genus *Nuchequula* with descriptions of the three new species (Perciformes: Leiognathidae)」

木村清志・木村良子 (三重大院水実)・池島 耕 (アジア工科大学院)

「魚類標本から見た琵琶湖内湖の原風景」

藤田朝彦 (近大農)・西野麻知子 (琵琶湖環境科学研究セ)・細谷和海 (近大農)

午後の部 13:30~15:00 (生態・保全)

- 11 13:30~ ミヤコタナゴの生息域外保存池における繁殖生態と生活史
○北村淳一 (東邦大理東京湾)・芦澤 淳・吉澤亮輔 (海洋大海洋)・
亀田さやか (横浜市)
- 12 13:45~ ため池のカワバタモロコ局所個体群間における生活史変異
○鈴木規慈・畠山絵美・高久宏佑・原田泰志 (三重大院生資)・
前畑政善 (琵琶湖博)
- 13 14:00~ 奈良県産ニッポンバラタナゴの保全の現状
○野口亮太 (近大院農)・松林 賢・本道賢一 (近大農)・北川忠生 (近大院農)
- 14 14:15~ 三重県志摩地方の一細流におけるホトケドジョウの生息環境および個体群動態
石黒貴裕・○淀 太我・吉岡 基 (三重大院生資)
- 15 14:30~ 生態試験池におけるギバチの繁殖および移動について
○勝呂尚之・安斉 俊 (神奈川水技セ内)・細谷和海 (近大院農)
- 16 14:45~ 駿河湾の海底谷近底層から採集されたセキトリイワシ科ナメライワシとヤセナメラ
イワシの仔稚魚, および成魚の再生産に関する知見
○高見宗広 (東海大院生物)・福井 篤 (東海大海洋)

休憩 15:00~15:15

午後の部 15:15~16:45 (生態・生理)

- 17 15:15~ 奄美大島産リュウキュウアユの産卵環境
○鶴田哲也・阿部信一郎 (中央水研)・米沢俊彦 (鹿児島県環境技)・
井口恵一朗 (中央水研)
- 18 15:30~ アユが高濃度の濁水により受ける影響と懸濁物質の粒度組成の関係
○村岡敬子 (独法土研)・天野邦彦 (国総研)・土居隆秀・久保田仁志 (栃木水試)・
三輪準二 (独法土研)
- 19 15:45~ 在来種サクラマス生息下における外来種ニジマスの定着条件
○長谷川 功 (さけますセ)・山本俊昭 (日本獣医生命科学大)・
北西 滋 (立命館大)
- 20 16:00~ 砂防堰堤で細分された溪流に生息するイワナの精子活性
○井口恵一朗・山本祥一郎・中村智幸 (中央水研)
- 21 16:15~ 北海道釧路川におけるサケ科魚類イトウの繁殖生態: 2005-2009 年の間に 3 匹のメ
スが選択した繁殖期間, 産卵地点および番オスとの関係
○小宮山英重 (野生鮭)
- 22 16:30~ 多数の産卵が行われる小支流におけるヤマメ稚魚の動態
○田中友樹・芦澤 淳・上野岳彦・丸山 隆 (海洋大)

10月11日(日)

午前の部 9:00~10:15 (生態・行動)

- 23 9:00~ 自家受精魚マングローブ・キリフィッシュの異クローン間交雑株の形質の変異
○倉掛敦子 (長大院生産)・阪倉良孝 (長大水)・萩原篤志 (長大院生産)

- 24 9:15～ 自家受精魚マングローブ・キリフィッシュの雄と雌雄同体間の生殖行動の観察条件
○村山正伸（長大院生産）・阪倉良孝（長大水）・萩原篤志（長大院生産）
- 25 9:30～ カジカ科魚類の同属内から見つかった交尾種と非交尾種
○宗原弘幸（北大FSセ）・阿部拓三（北大水産）・古屋康則（岐阜大教育）・鶴岡 理（函館水産高）
- 26 9:45～ 生き魚を用いたオオクチバスの釣り方
○片野 修・坂野博之（中央水研）
- 27 10:00～ 三重県幸神池におけるブルーギルの繁殖に関する行動生態学的研究
○池田裕司・淀 太我・吉岡 基（三重大院生資）
- 休憩 10:15～10:30

午前の部 10:30～11:45（生態・保全）

- 28 10:30～ 遺伝的集団構造からみた琵琶湖におけるオオクチバス・フロリダ半島産亜種遺伝子の増加要因
○池田雄基（近大農）・蔵本泰輔（近大院農）・高木秀公・伊東大志・鳥井 圭・竹林 惇（近大農）・淀 太我（三重大院生資）・北川忠生（近大院農）
- 29 10:45～ 成長速度からみた琵琶湖におけるオオクチバス・フロリダ半島産亜種遺伝子の増加要因
○蔵本泰輔（近大院農）・高木秀公・伊東大志・鳥井 圭・池田雄基・竹林 惇（近大農）・淀 太我（三重大院生資）・北川忠生（近大院農）
- 30 11:00～ 小規模な溜池におけるブルーギル当歳魚がモツゴとトウヨシノボリの餌料選択性に及ぼす影響
○芦澤 淳（海洋大）・篠原彩奈・武内 大（元海洋大）・丸山 隆（海洋大）
- 31 11:15～ 集群性を利用したブルーギル *Lepomis macrochirus* の駆除手法の開発
○藤本泰文（伊豆沼財団）・高橋清孝（シナイモツゴ郷の会）・進東健太郎（伊豆沼財団）・山家秀信（東農大）
- 32 11:30～ 水位低下操作を利用したダム湖におけるオオクチバス・ブルーギルの防除手法の効果
○大杉奉功・船橋昇治（WEC）・熊澤一正・浅見和弘（応用地質）・中沢重一（国交省三春ダム）

午後の部 13:30～14:45（生態・体系）

- 33 13:30～ ゲンゲ亜目魚類の繁殖生態：卵保護習性と交尾の証拠
○阿部拓三（北大水産）・山中智之（北大院水産）・宗原弘幸（北大FSセ）
- 34 13:45～ 骨格系に基づくウキゴリ属 *Gymnogobius* の類縁関係
○山内洋紀（海洋大）・細谷和海（近大農）・河野 博（海洋大）
- 35 14:00～ 日本産ハゼ科クロコハゼ属魚類の分類学的再検討
○渋谷浩一（長尾財団）・鈴木寿之（尼崎北高）
- 36 14:15～ ミナミトビハゼとヨダレカケの比較骨学・筋学 一半陸棲魚に収斂は見られるのか
○中江雅典・篠原現人・松浦啓一（国立科博）・中山直英・佐々木邦夫（高知大理）
- 37 14:30～ ビリンゴの骨格の発達にもとづく遊泳と摂餌機能の発育段階
○鶴川 亮・茂木正人・河野 博（海洋大）

休憩 14:45～15:00

午後の部 15:00～16:00 (生理・卵稚仔)

- 38 15:00～ マレーシア産トビハゼ *Periophthalmodon schlosseri* の呼吸器循環系の構造
○石松 惇・Tomas GONZALES (長崎大海洋セ)・加藤雅也 (西海区水研)・
Mazlan GHAFAR (マレーシア国立大)
- 39 15:15～ ミミズハゼのあいまいな回遊—河川構造によるパターンの違い—
○三浦太智 (弘大院農生)・山田裕之 (東北緑化)・大竹二雄 (東大海洋研)・
東 信行 (弘大院農生)
- 40 15:30～ 琉球列島の河川に生息するハゼ亜目魚類の分散戦略
○前田 健 (琉大理)・山崎 望 (宮古島市)・立原一憲 (琉大理)
- 41 15:45～ 浮遊期の分散に影響するハゼ亜目仔魚の形態と行動
○近藤 正 (琉大院理工)・前田 健 (琉大理)・山崎 望 (宮古島市)・
立原一憲 (琉大理)

10月12日(月)

午前の部 9:00～10:30 (生態・行動)

- 42 9:00～ 沖縄島におけるハタネボ属2種の比較
○小枝圭太 (琉大院理工)・立原一憲 (琉球大理)
- 43 9:15～ 有明海湾奥部における仔稚魚の年変動
○八木佑太・竹内啓悟・木下 泉 (高知大海洋研)・藤田真二 (西日本科技研)・
川村嘉応 (佐賀有明水振セ)
- 44 9:30～ 協同的一妻多夫で繁殖するシクリッドのメスの巧妙な繁殖戦略：メスによる複数オスの受精操作
幸田正典・牧野良美 (大阪市大院理)・Dik HEG (ベルン大)・
武山智博 (新潟大自然科学)・柴田淳也 (愛媛大CMES)・渡辺勝敏・
堀 道雄 (京大院理)・宗原弘幸 (北大FSセ)・○安房田智司 (中央水研)
- 45 9:45～ なぜ産卵時刻が種間で異なるのか？—西表島のリーフエッジにおけるベラ科魚類の繁殖行動
○桑村哲生 (中京大国際教養)・鈴木祥平 (χプロ)・
佐川鉄平 (WWF サンゴ礁保護研究セ)
- 46 10:00～ オダクス科2種 (*Heteroscarus acroptilus*, *Olisthops cyanomelas*) の産卵行動と性転換現象
○川瀬裕司 (千葉中央博海)・須之部友基 (海洋大)
- 47 10:15～ 北太平洋東部熱帯海域におけるカジキ類の繁殖と性比
○下瀬 環 (遠洋水研)・芦田拓士 (東海大院)・余川浩太郎 (遠洋水研)

口頭発表第二会場

10月10日(土)

午前の部 9:00~10:15 (魚類相・分子遺伝)

- 48 9:00~ 日本産淡水魚類の種多様性および地域魚類相の均質化
○渡辺勝敏・富永浩史(京大院理)
- 49 9:15~ 九州における純淡水魚の地理的分布パターン
○中島 淳(九大院工)・鬼倉徳雄(九大院農)・島谷幸宏(九大院工)
- 50 9:30~ 西海区水産研究所魚類標本コレクション(SNFR)の紹介
○星野浩一・小西芳信(水研セ西海水研)
- 51 9:45~ 仁徳天皇陵外濠の魚類相
○川島大助・吉村直孝・池田哲哉(総合科学)・貝塚耕一・黒原由信(堺市河川水路課)
- 52 10:00~ 水深による光環境の変化への視覚の適応と婚姻色の進化と種の分化
○寺井洋平・宮城竜太郎・溝入真治・相原光人・Semvua MZIGHANI(東工大生命)・菅原 亨・今井啓雄(京大霊長研)・岡田典弘(東工大生命)

休憩 10:15~10:30

午前の部 10:30~11:45 (体系・分布)

- 53 10:30~ *Apristurus sinensis* およびその近似種の分類学的再検討
○川内惇郎(北大院水産)・佐藤圭一(沖縄水)・仲谷一宏(北大)・矢部 衛(北大院水産)
- 54 10:45~ ツノザメ類の交尾器の連結軟骨と β 軟骨の形態学的多様性
○須田健太(北大院水産)・仲谷一宏(北大)・矢部 衛(北大院水産)
- 55 11:00~ *Anguilla luzonensis* の形態および分子形質の特徴
○渡邊 俊・青山 潤(東大海洋研)・Rhodora AZANZA(フィリピン大)・塚本勝巳(東大海洋研)
- 56 11:15~ オカムラウミヘビ *Scolecenchelys okamurai* (Machida and Ohta, 1996) はキタノウミヘビ *Scolecenchelys borealis* (Machida and Shiogaki, 1990) の新参同物異名
○星野和夫(大分うみたまご)・木村清志(三重大院水実)・町田吉彦(高知大理)
- 57 11:30~ 長江河口域碎波帯におけるエツ仔稚魚の分布, 出現量および成長
○Junsheng ZHONG・Ke-ke GE・Mei-qin WU(上海海洋大)・木下 泉(高知大海洋研セ)・Sheng-long ZHAO(浙江海洋学院)

午後の部 13:30~15:00 (体系・分子遺伝)

- 58 13:30~ 壱岐産中新世淡水魚類 *Iquius nipponicus* Jordan, 1919 の系統分類学的検討
○藪本美孝(北九州自然史博)・坂本陽子(春日市)
- 59 13:45~ シーボルトとビュルゲル収集の日本産コイの標本
○瀬能 宏(神奈川県博)・馬淵浩司・西田 睦(東大海洋研)

- 60 14:00～ ミトゲノム超行列に基づくコイ目系統の網羅的解析
○宮 正樹・佐土哲也（千葉中央博）・斉藤憲治（中央水研）・西田 陸（東大海洋研）
- 61 14:15～ 韓国産コイ科 “*Abbottina springeri*” の分類学的位置
○川瀬成吾・金 治弘・細谷和海（近大院農）
- 62 14:30～ 吉野川分水による吉野川水系から大和川水系へのカワムツの移入
○安齋有紀子・石井文子・伊藤玲香（近大農）・小山直人・北川忠生（近大院農）
- 63 14:45～ ミトコンドリア DNA 塩基配列データに基づくカワムツの遺伝的集団構造
○田中 靖（愛媛大院連合農）・関 伸吾（高知大農）
- 休憩 15:00～15:15

午後の部 15:15～16:45（形態・分子系統）

- 64 15:15～ イタセンパラの成長にともなう腸の発達と食性の変化
○山野ひとみ（近大院農）・小川力也（西野田工高）・長田芳和（大教大教育）・細谷和海（近大院農）
- 65 15:30～ コイ目ギリノケイルス科の頭部側線系
○武内啓明・細谷和海（近大院農）
- 66 15:45～ 日本における外来ドジョウ類の生息実態に関する遺伝学的調査
○藤井洋太（近大院農）・丸山弘明・原田泰志（三重大院生資）・北川忠生（近大院農）
- 67 16:00～ 日本産ドジョウに含まれる主要な2つのミトコンドリア DNA 系統の起源
○北川忠生・藤井洋太（近大院農）・小出水規行（農工研）
- 68 16:15～ ヤマトシマドジョウ種群における複数の母系起源の存在
○柏木祥平・竹野誠人・北川忠生（近大院農）
- 69 16:30～ 京都府北部から得られたシマドジョウ由来のミトコンドリア DNA をもつスジシマドジョウ新型集団
○竹野誠人・柏木祥平・北川忠生（近大院農）

10月11日（日）

午前の部 9:00～10:15（分子遺伝・分類）

- 70 9:00～ ホトケドジョウ類の進化と保護
○宮崎淳一・田村敏雄・土橋 学（山梨大）・森澤貴之（筑波大）
- 71 9:15～ 遺伝的多様性からみたホトケドジョウの生息地・個体群サイズ
○相木寛史（日大生物資源）・池田 綾（早大人間科学）・渡邊俊文・大里和輝・間野伸宏・廣瀬一美（日大生物資源）・勝呂尚之（神奈川水技セ内）・樋口文夫（横浜市環科研）・小出水規行（農工研）・小牧 弘（日大生物資源）
- 72 9:30～ 熱帯アジア産ナマズ目魚類 *Heteropneustes fossilis* の分類学的再検討
○Sahat RATMUANGKHWANG・Prachya MUSIKASINTHORN（Kasetsart Univ.）
- 73 9:45～ 高知県室戸市深層水取水管から得られたカクレウオ科の1種 *Tetragondacnus spilotus*
○山川 武（高知市）・町田吉彦（高知大理）

- 74 10:00～ 移入イトヨ集団から“近江ハリヨ”への遺伝子浸透とそれに伴う形態の急速な変化
○小北智之（福井県立大）・金尾滋史（多賀町立博／滋賀県大院）・森 誠一（岐阜経済大）

休憩 10:15～10:30

午前の部 10:30～11:45（形態・体系）

- 75 10:30～ サギフエ科の骨格形成
○高田陽子（国立科博）・吉田絵美（元高知大）・佐々木邦夫（高知大理）
- 76 10:45～ 石川県能登半島周辺と岩手県宮古市周辺におけるキツネメバルとタヌキメバルの遺伝的・形態的相違
○武藤望生（京大院農）・甲斐嘉晃（京大FSERC）・野田 勉（水研セ宮古）・中坊徹次（京大総博）
- 77 11:00～ 千葉県と高知県から得られたフサカサゴ科マダラフサカサゴ属の1未記載種
○本村浩之（鹿大総博）・藍澤正宏（宮内庁）・遠藤広光（高知大理）
- 78 11:15～ メバル属魚類における遺伝的差異
○井形智史（北里大海洋）
- 79 11:30～ Weber (1913)が記載した2種のアネサゴチ属魚類の分類学的位置づけ
○今村 央（北大院水産）

午後の部 13:30～14:45（分布・体系）

- 80 13:30～ シベリア地域の淡水魚類の分布域形成史：カジカ属 *Cottus sibiricus* を例にして
○横山良太（北大FSセ）・シデレワ V.G.（ロシア科学アカデミー）・後藤 晃（北大FSセ）
- 81 13:45～ オキカジカグループ（スズキ目カジカ科）各属の単系統性の検証
○稲川 亮・矢部 衛（北大院水産）
- 82 14:00～ 知床羅臼の深層水ポンプで得られたクサウオ科コンニャクウオ属の1未記載種
○町 敬介（北大院水産）・野別貴博（知床財団）・矢部 衛（北大院水産）
- 83 14:15～ アカハタの系統地理学：黒潮によって形成される集団構造と隠れた遺伝的系統
○栗岩 薫（国立科博）・千葉 悟（山形大院理工）・本村浩之（鹿大総合博）・松浦啓一（国立科博）
- 84 14:30～ オオクチバスの成長に伴う形態変化と雌雄および生息地による形態的差異
○横川浩治（多度津町）

休憩 14:45～15:00

午後の部 15:00～16:00（分類・形態）

- 85 15:00～ アジ科ムロアジ属アカアジ種群の分類学的再検討-I
○木村清志・片平和馬（三重大水実）・栗岩 薫（国立科博）

- 86 15:15～ テッポウウオの遠近調節系
○中野洋祐・上山達也・山本直之・宗宮弘明（名大生命農）
- 87 15:30～ 日本海溝付近の深海底から採集されたゲンゲ科ヘビゲンゲ属の未記載種
○篠原現人（国立科博）
- 88 15:45～ 知床半島産のギンボ類2種の二次性徴と分類
山中智之（北大院水産）・野別貴博（知床財団）・○矢部 衛（北大院水産）

10月12日（月）

午前の部 9:00～10:30（分類・分子遺伝）

- 89 9:00～ ベラギンボ属魚類2種の有効性と1未記載種
○片山英里・遠藤広光（高知大理）
- 90 9:15～ ミシマオコゼ科魚類の系統類縁関係に関する新知見
○Veera VILASRI・今村 央・矢部 衛（北大院水産）
- 91 9:30～ 黒潮流域におけるアミアイゴの遺伝的集団構造
○岩本健輔（琉大院理工）・張 至維（台湾海洋生物博）・吉野哲夫・今井秀行（琉大理）
- 92 9:45～ クロマグロ親魚内における遺伝的多様性と異質性
○重信裕弥（水研セ中央水研）・久門一紀（水研セ栽培セ奄美セ）・菅谷琢磨・小林敬典・斉藤憲治（水研セ中央水研）・塩澤 聡（水研セ栽培セ奄美セ）・中島員洋（水研セ中央水研）
- 93 10:00～ インドネシア沖の東部インド洋から採集された1未記載種を含むダルマガレイ科ザラガレイ属魚類
○尼岡邦夫（北大）・河合俊郎（北大総合博）
- 94 10:15～ マルチプレックスPCR法を用いた日本産マンボウ属2種のミトコンドリアDNAの簡易識別法
○山野上祐介・馬淵浩司（東大海洋研）・澤井悦郎・橋本博明（広大生物圏）・西田 陸（東大海洋研）

ポスター発表

(ポスターは、発表初日(10月10日)の午前9時までに指定の場所に貼附し、2日間掲示。奇数演題の
コアタイムは、10月10日の12:30~13:30、偶数演題は、10月11日の12:30~13:30.)

ポスター発表第一会場

- 95 ニッチ構築者としてのヤツメウナギ類幼生：カワヤツメ幼生とスナヤツメ北方型幼生の基質内移動と環境改変の検証
○白川北斗(北水院)・柳井清治(道工大)・後藤 晃(北大FSセ)
- 96 パラオから得られたハゼ亜目シラスウオ属魚類の隠蔽種
○昆 健志(東大海洋研)・吉野哲夫(琉大理)・西田 睦(東大海洋研)
- 97 九州北部におけるモツゴの分布と生活史
○鬼倉徳雄(九大院農)・中島 淳(九大院工)・杉本芳子・河野宏美・兼頭 淳(九大院農)
- 98 九州北部日本海側の水際環境におけるピリンゴ *Gymnogobius breunigii* とチクゼンハゼ *G. uchidai* の出現パターンと物理環境の関連性
○乾 隆帝(九大院農)・江口勝久(佐賀玄海セ)・鬼倉徳雄(九大院農)・西田高志(紙パ研)・川岸基能・中谷祐也・及川 信(九大院農)
- 99 北西太平洋に分布するタイ科キダイ属魚類の分子系統地理
○千葉 悟・半澤直人(山形大院理工)
- 100 ハゼ亜目魚類2科3種の側線系とその神経支配
○朝岡 隆(高知大院理)・佐々木邦夫(高知大理)
- 101 キホウボウ科イソキホウボウ属魚類の分類学的再検討
○河合俊郎(北大総合博)
- 102 メダカの腹椎骨数と尾椎骨数の遺伝率ならびに遺伝相関の推定
○木曾慎也・山平寿智(新潟大院自然科学)
- 103 佐渡島におけるドジョウの成長段階に応じた生息場所利用
○斉藤 慶(新潟大院自然研)・中島 淳(九大院工)・関島恒夫(新潟大院自然研)・島谷幸宏(九大院工)・河口洋一(徳島大工)
- 104 50年ぶり2例目：アイナメ属3種の雑種で見られた半クローン生殖
○木村幹子(北大FSセ)・阿部周一・荒井克俊(北大水産)・河田雅圭(東北大生命科学)・宗原弘幸(北大FSセ)
- 105 カジカ科魚類の精巢の比較形態
○古屋康則(岐阜大教育)・早川洋一(ICU生命科学)・宗原弘幸(北大FSセ)
- 106 海産カジカ魚類仔稚魚の基質選好性
○坂井慶多(北大院環)
- 107 北日本太平洋岸沖から採集されたクサウオ科 *Acantholiparis* 属の2種
○井上明生・遠藤広光(高知大理)
- 108 琉球列島における在来フナと移殖フナの分布と生息場所の比較
○高田未来美(東大海洋研)・立原一憲(琉大)・西田 睦(東大海洋研)
- 109 東京湾の干潟のタイドプールにおける魚類の分布と環境変量との関係
○加納光樹(茨城大水圏セ)・岡崎大輔(海洋大)・横尾俊博(島根大汽水セ)・井上 隆・今井 仁・小林 光(自然研)・河野 博(海洋大)

- 110 北浦の沿岸帯におけるクルマサヨリ仔稚魚の微小生息場所選択
○碓井星二・加納光樹（茨城大水圏セ）・荒山和則（茨城内水試）・中里亮治（茨城大水圏セ）
- 111 アカタナゴに認められた遺伝的に大きく分化した2集団
○片瀨弘志（環境生物研究所）・甲斐嘉晃（京大フィールド研）・中坊徹次（京大総博）
- 112 土佐湾から採集されたハリゴチ科ハリゴチ属の1未記載種
○永野優季（北大院水産）・遠藤広光（高知大理）・矢部 衛（北大院水産）
- 113 タンガニイカ湖産カワスズメ科魚類 *Neolamprologus niger* と *N. obscurus* の分類形質の再検討
○岡田亮平（北大院水産）・仲谷一宏（北大）・矢部 衛（北大院水産）
- 114 宮城県沖から採集された日本初記録のアシロ科魚類 *Brotulotaenia nielseni*
○大橋慎平・今村 央・矢部 衛（北大院水産）
- 115 タウエガジ科メダマギンボ属の分類学的検討，およびニセメダマギンボの日本初記録
○山中智之・矢部 衛（北大院水産）
- 116 貝に卵をあずける魚，ヒガイ類の産卵行動シーケンス
○小宮竹史（京大院理）・森阪匡通（京大野生動物）
- 117 日本列島におけるオイカワの系統地理
○早川明里（岐大地域）・高村健二（国環研）・中島 淳（九大院工）・河口洋一（徳大工）・鬼倉徳雄（九大院農）・向井貴彦（岐大地域）
- 118 日本近海に出現するマンボウ属2種の形態的差異
○澤井悦郎（広大院生物圏）・山野上祐介（東大海洋研）・坂井陽一・橋本博明（広大院生物圏）
- 119 伊豆半島南部の河川魚類相
○高井則之・加藤昭史・植草正臣・木村優子・杉本 崇・鈴木さや華・平岡徹也・糸井史朗・吉原喜好（日大生物資源）
- 120 アゴハゼにおける太平洋グループと日本海グループの存在
○平瀬祥太郎・池田 実・菅野愛美・木島明博（東北大院農）
- 121 琵琶湖におけるホンモロコの回遊行動多型：安定同位体アプローチ
○熊田裕喜・小北智之（福井県立大）・奥田 昇（京大生態研）
- 122 新規生息地（人工干潟：葛西海浜公園「東なぎさ」）におけるトビハゼの生息環境特性
○田辺信吾・橋本浩史・池田正人（葛西臨海水族園）

ポスター発表第二会場

- 123 土佐湾から得られたカジカ科ダルマカジカ属の1未記載種
○鶴岡 理（函館水産高）・中山直英（高知大理）・矢部 衛（北大院水産）
- 124 北西太平洋産サケビクニン複合種群（クサウオ科）の分類学的再検討
○甲斐嘉晃（京大FSERC）・坂井恵一（のと海洋）・James W. ORR（NOAA）・中坊徹次（京大総博）
- 125 北部九州に移入されたワタカの分布と産卵場所
○大畑剛史・乾 隆帝・井原高志（九大院農）・中島 淳（九大院工）・鬼倉徳雄（九大院農）
- 126 インドネシア沖インド洋から採集されたセクトリイワシ科ハゲイワシ属の2未記載種
○山本みつ美・今村 央・矢部 衛（北大院水産）
- 127 土佐湾と奄美大島沖から得られたニギス属の1未記載種
○遠藤広光（高知大理）・梨田一也（中央水研）
- 128 ため池におけるカワバタモロコの初期餌料
○畠山絵美・鈴木規慈・高久宏佑・原田泰志（三重大院生資）

- 129 ソコダラ科魚類 *Asthenomacrus victoris* の性的二型と日本周辺における記録
○中山直英・遠藤広光（高知大理）
- 130 ミトコンドリア DNA の塩基配列データに基づくカジカ種群両側回遊性 2 種の集団構造の非対称性
○塚越英晴（北大院水産）・横山良太・後藤 晃（北大FSセ）
- 131 霞ヶ浦におけるタナゴ類の採捕数と種構成の時間変動
○諸澤崇裕（筑波大院生命）
- 132 東海地方におけるハゼ科ウキゴリ属魚類 4 種の生息環境—底質粒径との関わり—
○鈴木陽介（東海大人間環境）・荒尾一樹（環境科学研究所）・北野 忠（東海大教養）
- 133 アリアケギバチのタイプ標本に含まれるギギ
○藤田朝彦（建設環境研究所）・Martin van OIJEN（オランダ王立ライデン自然博）・細谷和海（近大農）
- 134 東海地方におけるハゼ科ウキゴリ属魚類 4 種の分布の現状
○荒尾一樹（環境科学研究所）・鈴木陽介（東海大人間環境）・北野 忠（東海大教養）
- 135 メダカにおける求愛行動および配偶者選好性の緯度間変異
○佐々木 健（新潟大院自然）・山平寿智（新潟大理）
- 136 奥武蔵地域のイワナ個体群の衰退過程
○斉藤裕也（奥武蔵陸水生物）
- 137 中海と宍道湖を連絡する大橋川における仔稚魚の出現様式（予報）
○横尾俊博・堀之内正博・荒西太士（島根大汽水セ）
- 138 小笠原諸島から採集されたウツボ科ウツボ属魚類の 1 未記載種
○波戸岡清峰（大阪市自博）・瀬能 宏（神奈川県博）
- 139 ハレム社会をもつサラサゴンベの双方向性転換—自然状況下での発現状況と機能性
○門田 立・大里 純・永田 健・橋本博明・坂井陽一（広大院生物圏）
- 140 ミトコンドリア全長配列に基づくコイ科ラベオ亜科の分子系統解析
○佐土哲也（千葉中央博）・斉藤憲治（中央水研）・西田 睦（東大海洋研）・宮 正樹（千葉中央博）

ポスター発表第三会場

- 141 ヴィクトリア湖産シクリッドの細胞遺伝学的解析：B染色体の発見とその機能
○吉田恒太（東工大院生命）・黒岩麻里（北大院理）・寺井洋平・溝入真治・相原光人（東工大院生命）・平井啓久・平井百合子（京大霊長研）・小林直樹（東工大院生命）・松田洋一（名大院生命農）・岡田典弘（東工大院生命）
- 142 遺伝的多様性の保全に配慮した絶滅危惧種ミヤコタナゴの繁殖補助
○久保田仁志・酒井忠幸（栃木水試）・高橋岳雄（栃木県自然環境課）・渡辺勝敏（京大院理）
- 143 霞ヶ浦における仔魚の餌生物密度の季節間比較
○富永 敦（茨城水振課）・荒山和則（茨城内水試）
- 144 中国沿岸のシラスウナギにおける変態期の日齢，耳石の微量化学および回遊経路
○Wenqiao TANG・Kai WEI・Hong-yi GUO・Zheng-li XIE（上海海洋大）・石鍋寿寛（観音崎自然博）
- 145 中国南東部沿岸におけるエツの集団遺伝学的構造
○Jinquan YANG・Xuelan YAN・Wenqiao TANG（上海海洋大）・石鍋寿寛（観音崎自然博）

- 146 mtDNA の D-loop 領域にもとづくニホンウナギの集団遺伝学的構造
○Xiaolong GONG・Sifa LI (上海海洋大)・石鍋寿寛 (観音崎自然博)
- 147 沖繩のサンゴ礁域におけるハタ科魚類 2 種の生息場所選択性
○名波 敦・青沼佳方 (水セ西水研石垣)
- 148 岐阜県の水田地帯におけるスジシマドジョウ小型種東海型の生息環境と生活史
○田中綾子・向井貴彦 (岐阜大地域)
- 149 *Stegastes insularis* (スズメダイ科クロソラスズメダイ属) の分布に関する新知見
○渡井幹雄 (海洋大)・森田康弘 (小笠原ダイビングセ)・瀬能 宏 (神奈川県博)
- 150 ウグイ亜科魚類の系統類縁関係 I : ミトゲノム解析に基づく *Oreoleuciscus* 属の系統的位置
○井元順一 (山形大院理工)・斉藤憲治 (中央水研)・足立 淳・佐々木 剛 (統計数理研)・
Yuri KARTAVTSEV (ロシア海洋生物研)・千葉 悟・後藤 亮 (山形大院理工)・
宮 正樹 (千葉中央博)・西田 睦 (東大海洋研)・半澤直人 (山形大院理工)
- 151 カジカ大卵型における外部形態変異と生息環境の関係
○棗田孝晴 (千葉科学大危管)・鶴田哲也 (中央水研)・武島弘彦 (東大海洋研)・
井口恵一朗 (中央水研)
- 152 滋賀県内のため池に生息するカワバタモロコの成長と成熟および年齢組成
○高久宏佑 (三重大院生資)・朱 希希 (上海海洋大海洋科学)・鈴木規慈・畠山絵美・
原田泰志 (三重大院生資)
- 153 西日本におけるホトケドジョウ類の遺伝学的解析
○田村敏雄 (山梨大)・望月茉莉・東城幸治 (信州大)・宮崎淳一 (山梨大)
- 154 南極海の昭和基地沖から得られたナンキョクダルマハダカ (ハダカイワシ科) の発育段階
○辻村衣里・茂木正人・石丸 隆 (海洋大)
- 155 日本近海におけるアジ科シマアジ *Pseudocaranx dentex* の 2 型について
○松本立樹 (京大院農)・甲斐嘉晃 (京大FSERC)・中坊徹次 (京大総博)
- 156 イトヨ日本海型と太平洋型の繁殖場所における食性
○久米 学 (土研自然共生セ)・鳥居千晴 (アジア航測)・森 誠一 (岐阜経済大)
- 157 コイ科スゴモロコ類の系統地理と形態変異
○柿岡 諒・渡辺勝敏 (京大院理)
- 158 駿河湾奥部の河口域における仔稚魚の群集構造
○玉井隆章 (いであ)・福井 篤 (東海大海洋)

ポスター発表第四会場

- 159 阿武隈高地における在来イワナの生息現状
○稲葉 修 (南相馬市博)・丸山 隆 (海洋大)・斉藤裕也 (比企・奥武蔵陸水調査会)
- 160 東海地方のため池におけるカワバタモロコの生活史
荒尾一樹 (環境科学研究所)・○下山淳二 (岐阜市役所)
- 161 瀬戸内海東部で採集された在来および放流タケノコメバル集団の遺伝的差異
○富永 修・吉田拓人 (福井県立大海洋)・榎野元秀・三木勝洋 (香川水試)・
宮内 大 (香川栽培セ)
- 162 ホトケドジョウの湧水への集合特性の検証
○守山拓弥 (農環セ)
- 163 栃木県那珂川水系におけるコクチバスの産卵環境と駆除の試み
○酒井忠幸・武田維倫・吉田 豊・石嶋久男 (栃木水試)

- 164 静岡県の河川より得られたミミズハゼ属魚類 *Luciogobius* sp.3 の外部形態
○金川直幸 (藤枝東高)・板井隆彦 (静岡県大食品栄養)
- 165 性役割が逆転したヨウジウオ科魚類イシヨウジの雄に発現する性的形質
○曾我部 篤 (広大院生物圏)・松本浩司 (愛媛大付属高)・柳沢康信 (愛媛大)
- 166 温帯河川の魚類の活動性と微生物場所選択に物理環境の季節変化が与える影響
○中川 光・渡辺勝敏 (京大院理)
- 167 静岡県に生息する在来アマゴの遺伝的特性
○川嶋尚正 (静岡水技研)・霜村胤日人 (静岡県庁)・阿久津哲也 (静岡水技研)
- 168 淡水二枚貝ヨコハマシジラガイの宿主としてのホトケドジョウの有用性
○伊藤寿茂 (新江ノ島水族館)・柿野 亘 (神奈川県西湘地域県政総合セ)・吉田 豊 (栃木水試)
- 169 カマツカ種群の系統地理
○富永浩史 (京大院理)・中島 淳 (九大院工)・渡辺勝敏 (京大院理)
- 170 琉球列島産キバラヨシノボリ類の遺伝的差異の検討
○川口 亮・吉野哲夫 (琉大理)
- 171 小スケールにおける局所適応: 野外調査, DNA 解析, 同一環境下飼育実験から
○小泉逸郎 (北大地球環境)
- 172 琵琶湖東部のエリ漁で採集される魚類群集の季節変化
○金尾滋史 (多賀町立博)・前畑政善 (琵琶湖博)・沢田裕一 (滋賀県大環境)
- 173 台湾産タナゴ類の遺伝的多様性
○益子広一 (宇都宮大教育)・久保田仁志 (栃木水試)・上田高嘉 (宇都宮大教育)
- 174 ニッポンバラタナゴ九州集団の保全遺伝
○三宅琢也・河村功一 (三重大院生資)・中島 淳 (九大院工)・鬼倉徳雄 (九大院農)
- 175 砂浜海岸における仔稚魚の出現に影響する環境要因
○荒山和則 (茨城内水試)・品川汐夫 (元下関短大)・河野 博・茂木正人 (海洋大)・横尾俊博 (島根大)
- 176 北日本産ガンギエイ科魚類の幼魚個体の分類学的研究
○奥野哲史 (北大院水産)・仲谷一宏 (北大)・矢部 衛 (北大院水産)
- 177 宮崎県門川湾における南方系魚類の出現について
○泉 光 (宮崎大院農)・和田正昭 (庵川漁協)・田中文也 (宮崎大院農)・山根あゆみ・岩槻幸雄 (宮崎大農)
- 178 韓国産 *Scartelaos gigas* の表皮構造
Jong-Young PARK・Min-Gi OH (全北大)・○金 治弘 (近大農)

ポスター発表第五会場

- 179 タイ科キダイ亜科キダイ属 *Dentex*, セダカキダイ属 *Cheimerus*, 及びマダイ亜科マダイ属 *Pagrus*, タイワンダイ属 *Argyrops*, チダイ属 *Eynnys* における歯の形状と外部形態
○田中文也 (宮崎大院農)・岩槻幸雄 (宮崎大農)
- 180 ミトコンドリアゲノム全長配列に基づくクサウオ科内の系統類縁関係
○佐藤 崇 (国立科博)・宮 正樹・佐土哲也 (千葉中央博)・松本亜沙子 (東大海洋研)・Alan JAMIESON・藤井豊展 (Aberdeen Univ.)・Peter MØLLER (Copenhagen Univ.)・西田 睦 (東大海洋研)
- 181 ニュージーランド産ヘラザメ属の 1 未記載種および近縁群の分類について
○佐藤圭一 (海洋博研セ)・Andrew STEWART (NMNZ)・仲谷一宏 (北大院)

- 182 霞ヶ浦湖岸帯における仔稚魚を中心とした魚類相とその季節変化
○半澤浩美 (茨城水試)・荒山和則 (茨城内水試)・富永 敦 (茨城県)
- 183 屋久島から得られたヘビギンポ科ヘビギンポ属の 1 未記載種
○目黒昌利 (鹿大院水産)・原崎 森 (森と海)・本村浩之 (鹿大総合博)
- 184 長崎県産および沖縄県産アイゴにおける形態学的・遺伝学的差異
○柳下直己 (長大海セ)・井上慶一 (長大水)・桐山隆哉 (長崎水試)・吉村 拓 (西海水研)・山口敦子 (長大水)
- 185 キンギョの味覚回路について
○加藤 健・宗宮弘明・山本直之 (名大生命農)
- 186 棘鱗上目に相同的なマイクロサテライトマーカーに基づくパラオ諸島海水湖産魚類の集団解析
○後藤 亮・半澤直人 (山形大院理工)
- 187 ミトコンドリアゲノム調節領域からみたカマキリの遺伝的多様性と集団構造
○石黒直哉・政田智啓 (福井工大工)・田原大輔 (福井県立大海洋)
- 188 メダカ南北集団における遊泳速度および筋肉酵素活性の比較
○岡部晶子・宮下太輔・東 信行 (弘大院農生)
- 189 日本産モツゴにおける mtDNA の地理的変異
○向井貴彦 (岐阜大地域)・小西 繭 (信州大SVBL)・渡辺勝敏 (京大院理)・武内陽佑 (岐阜大地域)・中島 淳 (九大院工)・河口洋一 (徳島大工)・鬼倉徳雄 (九大院農)・高田啓介 (信州大理)
- 190 ミトコンドリア DNA 分析によるハゼクチの遺伝的集団構造
○中山耕至 (京大フィールド)・鄭 忠勲 (仁荷大)・郭 又哲 (慶尚大)・中坊徹次 (京大総博)
- 191 宮崎県におけるイサキ科, ヒメジ科およびイトウダイ科魚類
○山根あゆみ・岩槻幸雄 (宮崎大農)
- 192 東京湾, 江戸川放水路・多摩川河口におけるトビハゼ *Periophthalmus modestus* の食性に関する研究
○田井正吾・青木 茂・岡本 研・佐野光彦 (東大院農)
- 193 ミトコンドリア DNA の D-loop 領域と Cytochrome-*b* 領域からみた日本近海に生息するインダイ *Oplegnathus fasciatus* の集団遺伝構造
○川上 恵・工藤康介・岩槻幸雄 (宮崎大農)
- 194 クダヤガラ稚魚における体表の微細構造およびホヤ孵出のタイミング
○青木真知子 (東海大院海洋)・赤川 泉 (東海大海洋)・原 政子 (東大海洋研)
- 195 Morphological and ecological features of *Kichulchoia brevifasciata* (Pisces, Cobitidae)
○Eun-Jin KIM (九大)・Ik-Soo KIM (Chonbuk National Univ.)
- 196 Sexual maturity and morphology of eggs and larvae of *Scartelaos gigas*
○Jin Koo KIM・Hae Ja BAEK・Dae Soo CHANG・Joo IL (Pukyong National Univ.)
- 197 Identification of the two ophichthid leptocephalus from East/Japan Sea
○Hwan Sung JI・Jin Koo KIM (Pukyong National Univ.)

日本魚類学会自然保護委員会 市民公開シンポジウム

会 場： 大講義室
日 時： 2009年10月12日（月・祝） 11:00～18:30

国内外来魚問題の現状と課題

Domestic alien species of fishes in Japan: present aspects and problems

コンピーナー： 向井貴彦（岐阜大地域）・淀 太我（三重大院生資）・河村功一（三重大院生資）・
鬼倉徳雄（九大院農）・瀬能 宏（神奈川県博）

基調講演

1. 11:00～11:20 国内外来種とは何か？
○瀬能 宏（神奈川県博）

国内外来種による生態系・群集の変化

2. 11:20～11:40 有明海沿岸域のクリーク地帯における国内外来魚の分布パターン
○鬼倉徳雄（九大院農）・中島 淳・佐藤真弓（九大工）・河口洋一（徳島大）・
向井貴彦（岐阜大）
 3. 11:40～12:00 湖沼におけるコイの水質や生物群集に与える生態的影響
○松崎慎一郎（東大地球観測データ統融合連携研）
- 12:00～13:00 <昼休み>

国内外来種の希少淡水魚への悪影響

4. 13:00～13:20 シナイモツゴからモツゴへ—非対称交雑と種の置き換わり—
○小西 繭（信州大SVBL）・高田啓介（信州大理）
5. 13:20～13:40 タナゴ亜科における遺伝子浸透
○三宅琢也・河村功一（三重大院生資）

国内外来種による遺伝的攪乱

6. 13:40～14:00 琵琶湖から関東の河川へのオイカワの定着
○高村健二・中原真裕子（国立環境研）
 7. 14:00～14:20 大和川水系でみとめられたヒメダカによる遺伝的攪乱
小山直人・○北川忠生（近大院農）
 8. 14:20～14:40 琵琶湖水系のイワナの漁場管理にむけて
○亀甲武志（滋賀水試）
- 14:40～15:00 <休憩>

海産魚における国内外来種問題

9. 15:00～15:20 日本の水産業における海産魚介類の移殖放流
○横川浩治（香川県多度津町）

国内外来種拡散の要因

10. 15:20～15:40 内水面漁業の今後の課題
○丸山 隆（海洋大）
11. 15:40～16:00 滋賀県内の鑑賞魚店における日本産淡水魚類の販売状況と課題
○金尾滋史（多賀町博）

国内外来種の法的規制

12. 16:00～16:20 滋賀県の条例について
○中井克樹（琵琶湖博）
13. 16:20～16:40 保全の単位：考え方、実践、ガイドライン
○渡辺勝敏（京大院理）
- 16:40～17:00 <休憩>

総合討論：今後の対策について（17:00～18:30）

司会：向井貴彦

アフターセッション：懇親会（19:00～21:00）

シンポジウムの趣旨

侵略的外来生物が及ぼす環境への負の影響は世界的な問題となっており、日本においても生態系に著しい影響をもたらす国外起源の外来生物を特定外来生物として指定することで、取り扱いを法的に厳しく制限している。しかし、海外からの外来生物の影響に比べて、日本国内での意図的・非意図的の行為による“国内外来種”の分布拡大・遺伝的かく乱・生態系への影響についての一般的な認識は低く、具体的な対策へと結びつく研究はほとんどない。

淡水魚の場合、移動範囲が河川水系内に限定されるという特性上、地理的分化が進んでおり、地域ごとに遺伝的・生態的・形態的に多様であることが知られている。ところが、漁業・遊漁目的で膨大な量のアユやコイ、フナなどの種苗が全国で放流されており、そうした種苗に混入した淡水魚が本来の分布域を越えて全国に広がっているという現状がある。混入した純淡水魚は、海外からの侵入生物と同様に侵入先で悪影響を及ぼしている可能性があるにもかかわらず、それらが「日本産」という理由で看過することは、生物多様性および河川・湖沼の魚類の保全にとってのリスクを放置することになる。さらに、イワナやヤマメなどの渓流魚や、メダカなどの観賞魚においては、地理的多様性を無視した放流によって遺伝的攪乱が生じていることも危惧される。海水魚においても、地域差を無視した放流が続けられており、生物多様性に悪影響を与えていると考えられる。

こうした国内外来種について、個々の研究者の報告だけでは、それらが生態系や生物多様性に与える影響を総合的に把握することは難しい。さらに、問題の啓発という点においても、これまでの知見を集積し、アピールすることが今後の対策に重要である。そこで、日本魚類学会の公開シンポジウムとして、特に在来生態系への影響の顕著な事例を取り上げることで、国内外来魚の生態的・遺伝的影響、拡散要因、法的規制の現状を明らかにすると共に、今後の対策についての展望を開くことを目的としたい。

2009 年度日本魚類学会シンポジウム

会場：32 番講義室
日 時：2009 年 10 月 12 日（月・祝）12:40～18:30

日本在来魚における適応的分化：その実態とエコゲノミクスへの展望

Adaptive divergence in Japanese native fishes: patterns, mechanisms and ecological genomic perspectives

コンピーナー：小北智之（福井県立大）・山平寿智（新潟大理）

コメンテーター：井口恵一朗（中央水研）・高橋 洋（水大校）

1. 12:40～13:00 開催趣旨説明と魚類における適応的分化の検出方法
○小北智之（福井県立大）・山平寿智（新潟大理）

第 1 部 進化生態学的アプローチから適応的分化を探る

2. 13:00～13:30 降海型サクラマスにおける死亡率と体サイズの性差の個体群間比較：地理的パターンに関する予測
○玉手 剛（北大 FS セ）
 3. 13:30～14:00 変化し続ける湖，適応し続ける魚：ヒガイ類にみる琵琶湖固有魚類の多様化メカニズム
○小宮竹史・渡辺勝敏（京大院理）
 4. 14:00～14:30 繁殖環境に対する適応：イトヨにおける生態的分岐と生殖的隔離
○久米 学（土木研自然共生セ）・北野 潤（FH 癌研究セ）・森 誠一（岐阜経済大）
 5. 14:30～15:00 亜寒帯性種と温帯性種の分布境界域に形成された交雑帯での雑種の適応戦略：アイナメ属魚類の事例
○木村幹子・宗原弘幸（北大 FS セ）
- 15:00～15:10 <休憩>

第 2 部 進化遺伝学的アプローチから適応的分化を探る

6. 15:10～15:40 変動環境下の適応進化：シロウオ日本海型と太平洋型を用いたゲノムスキャンから
○小北智之（福井県立大）
7. 15:40～16:10 網羅的遺伝子発現解析によるアユの地域適応遺伝子の探索
○武島弘彦（東大海洋研）

第 3 部 日本産ゲノム魚における研究例-生態学，遺伝学，ゲノム科学の統合的研究へ向けて-

8. 16:10～16:40 フグ類の多様化をもたらした遺伝子の探索：種間交雑を利用したゲノムワイド QTL 解析
○菊池 潔・甲斐 渉・細谷 将・木戸慎一・末武弘章・鈴木 讓（東大水実）
 9. 16:40～17:10 日本のイトヨ自然集団における嗅覚受容体遺伝子群の適応進化
○橋口康之（大阪医科大）・西田 睦（東大海洋研）
 10. 17:10～17:40 メダカ的生活史の気候適応：エコゲノミクスへの展望と問題
○山平寿智（新潟大理）
- 17:40～17:50 <休憩>

第 4 部 総合討論（17:50～18:30）

司会：山平寿智，コメンテーター：井口恵一朗・高橋 洋

シンポジウムの趣旨

適応的分化や局所適応と呼ばれる姉妹種・亜種・種内集団間における各種形質の機能的分化は、自然集団における適応進化の歴史、プロセス、そしてメカニズムを統合的に解明するのに適している。魚類においては、アフリカ大地溝帯の湖におけるシクリッド、北米やヨーロッパ高緯度地域の後氷湖におけるトゲウオやコレゴヌス、中米熱帯域の河川におけるグッピー等をモデル系として、詳細な統合的研究が展開されている。一方、我が国に目を向けると、日本列島は南北に長く、水域の物理・化学・生物的環境に緯度クラインが存在すること、琵琶湖や有明海等に代表される特異的環境を有する湖沼・内湾が存在すること、日本海のような過去に大きな環境変動を経験した海域が存在することなど、そこに生息する魚類に適応的分化が生じる基盤が存在する。しかし、このような基盤の存在にも関わらず、日本在来魚におけるその実態に関する知見は乏しく、表現型の分化が適応進化の産物であるかどうかを詳細に検討した研究例も少ない。また、近年、ゲノム生物で急速に発展しつつある進化生態学、分子遺伝学、ゲノム科学の融合したエコゲノミクスの題材として興味深い魚類が生息しているのにも関わらず、そのようなアプローチへの展開例も現状では極めて少ない。本シンポジウムでは、主に進化生態学と進化遺伝学的なアプローチによって、適応的分化のパターンと生態的・遺伝的メカニズムの解明を目指している研究者が一堂に会し、淡水魚、通し回遊魚、海水魚を含む多様な在来種における最新の研究成果を紹介する。さらに、ゲノム科学的手法の非モデル魚における適用の敷居が今後ますます低くなることが想定される今日、日本在来魚をモデル系にしたエコゲノミクスへの展望を議論したい。

2009 年度日本魚類学会シンポジウム

会場：34 番講義室
日 時：2009 年 10 月 12 日（月・祝）11:00～18:00

迫り来る温暖化から魚類を救え！

— 魚類学者たちの挑戦 —

Saving fishes from global warming
— The challenge for ichthyologists —

コンピーナー：奥田 昇（京大生態研セ）・西田 睦（東大海洋研）
コメンテーター：永田 俊（東大海洋研）・後藤 晃（北大 FS セ）

1. 11:00～11:10 開催趣旨：「地球温暖化と魚類」
○西田 睦（東大海洋研）

第 1 部 温暖化に伴う魚類群集構造の変化

2. 11:10～11:40 温暖化によるサケ科魚類の分布縮小予測—特に日本産イワナ属魚類を例に—
○前川光司（北大 FS セ）
3. 11:40～12:10 若狭湾沿岸の定例潜水で見られる魚類相の季節変化，年変動および温暖化の影響
○益田玲爾（京大舞鶴水産実験所）
4. 12:10～12:40 温暖化とサンゴ礁魚類群集：直接的な影響と間接的な影響
○佐野光彦（東大院農）
- 12:40～13:30 <休憩>

第 2 部 温暖化に対する魚類の応答メカニズム

5. 13:30～14:00 温度適応に関与する遺伝子
○山下倫明（中央水研）
6. 14:00～14:30 温暖化が起こったらイワナがいなくなるワケ
○谷口義則（名城大理工）・河口洋一（徳島大工）
- 14:30～14:40 <休憩>

第 3 部 人為攪乱に脆弱な希少魚の温暖化リスク

7. 14:40～15:10 リュウキュウアユ初期生活に与える水温の影響
○岸野 底（河川生態調査）・四宮明彦（鹿大水産）
8. 15:10～15:40 温暖化が湧水魚ハリヨの生態に及ぼす影響
○森 誠一（岐阜経済大経済）
9. 15:40～16:10 温暖化に翻弄される琵琶湖固有種イサザ
○奥田 昇・酒井陽一郎（京大生態研セ）・熊谷道夫（琵琶湖環境研セ）
- 16:10～16:20 <休憩>

第 4 部 温暖化研究の将来展望

10. 16:20～16:40 コメント：温暖化影響研究の一事例（琵琶湖の循環と生態系）
○永田 俊（東大海洋研）
11. 16:40～17:00 コメント：魚類の温暖化研究への批判と展望
○後藤 晃（北大 FS セ）
12. 17:00～18:00 総合討論

シンポジウムの趣旨

近代に始まった全球的な温暖化傾向が人間活動によってもたらされたことは、もはや疑う余地もない。そして、21世紀、我々は人類史上かつてない急速な温度上昇に直面しようとしている。その影響は、人間社会よりも一足早く、温度環境の変化に極めて鋭敏な変温動物である魚類に忍び寄っている。温暖化に伴う水温上昇は、魚類の生息分布域の変化にとどまらず、時として、局所個体群や種の絶滅をも引き起こす危険性を秘めている。しかし、魚類の温暖化影響を警告するエピソードの多くは論争の渦中にあり、その真偽を検証するのに十分な判断材料を我々はまだ持ち合わせていない。とりわけ、温暖化に伴う魚類の個体レベルの応答メカニズムや、温暖化を介した生物間相互作用の変化が魚類の個体群を変動させるプロセスには未解明な部分が多く、野外において魚類の温暖化影響を実証的に示した研究は極めて限られている。このような現状の下、日本魚類学会としても、温暖化問題と真正面から向き合う必要があるだろう。そこで、本シンポジウムでは、学会内外の識者を交えながら、最新の研究成果に基づき魚類の温暖化問題について議論を深めたい。

まず初めに、魚類の温暖化影響が顕在化しつつある各地の状況を把握するため、近年の魚類群集構造の変遷に関する事例報告を行い、温暖化との因果関係を科学データに基づいて検討する。続いて、温度上昇に対する魚類個体の応答メカニズムを明らかにすることによって、その個体群変動をもたらすプロセスについての理解を深める。これらプロセス研究の知見を踏まえ、人為攪乱に対して脆弱な希少魚の温暖化リスクを評価する。最後に、温暖化に翻弄される魚たちを絶滅の危機から救うために魚類学者がなすべきこと、そして、社会に対して提言すべきことについて討論したい。

2009年度日本魚類学会年会

会場（年会，懇親会）へのアクセス



[交通手段]

- ・ JR線・京浜急行線 品川駅港南口（東口）から正門まで徒歩約10分
- ・ 東京モノレール天王洲アイランド駅から「ふれあい橋」を渡り裏門まで約10分
- ・ りんかい線天王洲アイランド駅から「ふれあい橋」を渡り裏門まで約15分

